



たかしま takashima



ようこそ沖縄から
「初めての雪は？」との問いに、
返ってきた答えは「最高!!」。
満面の笑みに、
雪解けも早まりそうです。

【2月10日「伊江村高島市青少年交流事業」箱館山スキー場にて】

CONTENTS 目次

平成19年度から所得税・住民税が変わります	2~5
タウンピックス	6~8
市長日記・シリーズ環の郷	9
教育委員会 Information	10・11
みんなで子育て、親育ち！地域で子育て、親育て！	12・13
健康生活してますか？	14・15
まちネタ写真館	16・17
そうだ、図書館に行こう♪	18・19
みんなのページ	20・21
情報お知らせ版	22~26
文化情報	27
病院・警察	28
窓口・納税	29
行事カレンダー	30・31
歴史散歩	32

3月号
平成19年



Home Page Address
<http://www.city.takashima.shiga.jp>
Mail Address
t-info@city.takashima.shiga.jp

広報たかしま 2007.3.1発行

Takashima 2007 March No.38

発行・編集 高島市役所企画部秘書広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新堀町1-6番地 ☎0742-5-8130
高島市ホームページ <http://www.city.takashima.shiga.jp>
高島市メールボックス t-info@city.takashima.shiga.jp

高島市 歴史散歩

No.27

朽木谷の木地屋と道具

中世ころから昭和初期にかけて、轆轤ろくろを用いて木製の椀、丸膳、盆、鉢など、主として丸物と呼ばれる木地物を製作した職人は、木地屋・木地師・轆轤工・轆轤師などと呼ばれて、全国で活躍しました。彼らは、材料となる良質な木材を求めて山地帯を移住することが多く、朽木の「木地山」のように、木地屋が居住していたと考えられる地名は全国各地に残っています。



とくに滋賀県は、木地屋発祥の地とされ、木地屋の祖神として仰がれる文徳天皇第一皇子の惟喬親王にまつわる伝承や資

料なども県内各地に多く残されています。また、それらの調査を続け、高島市出身の故橋本鉄男先生は、木地屋の調査・研究に先んべんをつけた民俗学者として全国的にその名を知られています。

朽木の木地屋の活動については、元禄2年(1689)に貝原益軒かいばらえきけんが記した紀行文『西北紀行』に「朽木の町にて、挽き物(注：木地物のこと)をつくり、漆にてぬる椀盆などあり。」という記述があり、早くから朽木周辺で木地製品が造られていたことがわかります。ただ造られていた場所は「朽木の町」と一言で表現されていますが、実際は、木地屋と呼ばれる職人は轆轤村(現在の木地山)などの山間部に住み、塗師と呼ばれる漆職人は、岩神村(現在の岩瀬)に住んでいたようです。



した道具や製作した木地物は、現在、市教育委員会が保管され「朽木の木地屋用具と製品」として昭和59年に滋賀県の有形民俗文化財に指定されており、その一部は、朽木資料館で展示されています。(文化財課)



今年の冬は、こんな景色がちよっと恋しくなる天候です。(マキノ高原のメタセコイア並木)

編集後記

▼ポカポカ陽気に誘われて、顔を出したフキノトウも震え上がった節分寒波。積もった雪はアツという間に消えてしまいましたが、雪はいつも、見慣れた景色を驚きに変えてくれます。▼今月のまちネタ写真館では、1月末にチャレンジした「スノーシュー・トレッキング」の様子をご紹介します。美しいブナ林と眼下に広がる景色に励まされ、たどり着いた山頂には1m近い雪が。いつもなら2m以上の雪があつて、初心者ではとても近づけないとか。尾根伝いにしばらく歩いてから振り返ると、歩いてきた足跡だけが真っ白な雪の上に続いています。なんとも気持ちの良い瞬間です。国連報告で、21世紀末に地球の平均気温が6.4度上昇するとの予測がでました。このまま温暖化が進むと、21世紀末には、国内でブナに適した土地の9割がなくなるとの試算も。この高島も例外ではありません。この自然を守り、次代に引き継ぐためには、これまでを振り返り、人間活動の深刻さについてと真剣に考えないと、もう間に合いません。(広報担当)

